

特定行為区分	腹腔ドレーン管理関連	時間	8
特定行為名	(A) 腹腔ドレーンの抜去		
学ぶべき事項	(共通) 腹腔ドレーン管理関連の基礎知識	1. 腹腔ドレナージに関する局所解剖 2. 腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理 3. 腹腔ドレナージを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 腹腔ドレナージの目的 5. 腹腔ドレナージの適応と禁忌 6. 腹腔ドレナージに伴うリスク（有害事象とその対策等）	
	(A) 腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む。）	1. 腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌 2. 腹腔ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等） 3. 腹腔ドレーンの抜去の方法と手技	
研修概要	3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。	腹腔ドレーンの必要性やその特徴を理解し、腹腔ドレーンの抜去を実践できる看護師を養成する。	
	(A) 腹腔ドレーンの抜去	医師の指示の下、手順書により、身体所見（排液の性状や量、腹痛の程度、挿入部の状態等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔内に挿入・留置されているドレーン又は穿刺針を抜去する。抜去部は、縫合、結紮閉鎖又は閉塞性ドレッシング剤の貼付を行う。縫合糸で固定されている場合は抜糸を行う。	
評価方法	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、腹腔ドレーンの抜去ができるようになる。		
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。		
	3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。		
	4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。		
研修内訳	講義（8時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分	
	試験	※修了試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください。	

学ぶべき事項	講師	所属	研修方法	通番	
(共通) 腹腔ドレーン管理関連の基礎知識	腹腔ドレナージに関する局所解剖、主要疾患のフィジカルアセスメント	中瀬 一	北杜市立甲陽病院外科	講義	1
	腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理（1）	中瀬 一	北杜市立甲陽病院外科	講義	2
	腹腔ドレナージを要する主要疾患の病態生理（2）	平井 優	韮崎市立病院外科	講義	3
	腹腔ドレナージの目的、適応と禁忌、伴うリスク（有害事象とその対策等）	平井 優	韮崎市立病院外科	講義	4
(A) 腹腔ドレーンの抜去	腹腔ドレーンの抜去の適応と禁忌	中瀬 一	北杜市立甲陽病院外科	講義	5
	腹腔ドレーンの抜去に伴うリスク（有害事象とその対策等）	中瀬 一	北杜市立甲陽病院外科	講義	6
	腹腔ドレーンの抜去の方法と手技（1）	平井 優	韮崎市立病院外科	講義	7
	腹腔ドレーンの抜去の方法と手技（2）	平井 優	韮崎市立病院外科	講義	8